

(その四)

工場又は事業場の名称	五井化成株式会社 本社工場
------------	------------------

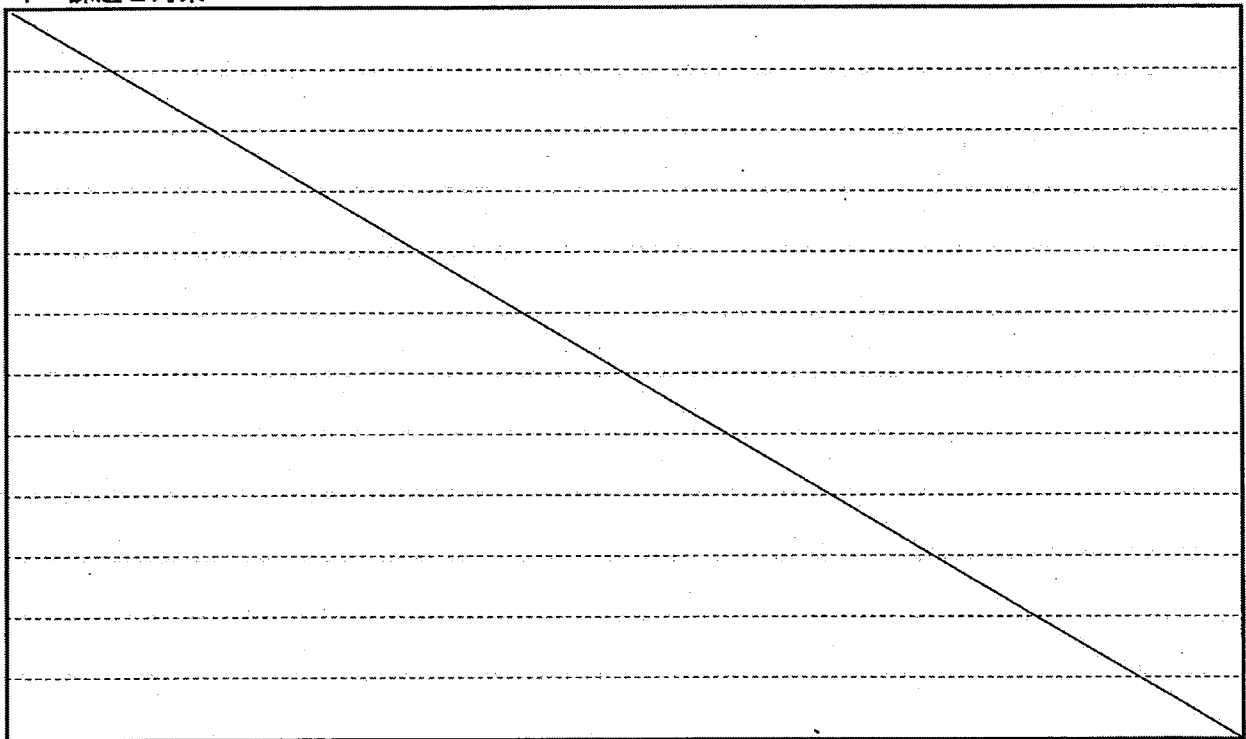
(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策



備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	日本アルデハイド株式会社 日本アルデハイド株式会社
------------	------------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
5	4								

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

工場設置以来、アセトアルデヒドの貯槽タンクの排気ベントは、工場内にあるフレアー スタックに接続してガスを燃焼させている為、大気放出はゼロとなっている。
特記事項
平成22年9月30日に弊社は解散し、10月1日より住友化学(株)千葉工場の 1 製造部門になりました。

(その四)

工場又は事業場の名称	日産化学工業(株) 袖ヶ浦工場五井製造所
------------	-------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<課題>
当工場での製品構成が変化し、低揮発性の有機化合物の使用量が減少し
高揮発性の有機化合物の取扱量が増加しています。高揮発性化合物の増加に伴い
タンクの増設を実施したことで、タンクからの排出量が更に増加しました。
<対策>
当工場で取扱う揮発性有機化合物で水溶性の有機化合物が大部分を占めますので、
屋外貯蔵タンク及び製造施設から排出される水溶性の有機溶媒を吸収装置で
吸収除去することを計画しています。平成23年度工事完了後におけるVOC
削減率は概略33%になると想定しています。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	バイオマス燃料供給有限責任事業組合 JBSL千葉ターミナル
------------	-------------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
○C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>バイオマス燃料の製造・供給は、国の「京都議定書目標達成計画」の実現のために、バイオETBEを2010年度から年間84万KL導入し、CO₂を削減するために石油連盟が実施している事業です。バイオETBEの使用は、カーボンニュートラル効果により地球温暖化対策には貢献しますが、バイオETBEが揮発性有機化合物に該当するために内部浮屋根式タンクに貯蔵しVOC排出量を削減する等の対策を実施しています。JBSL千葉ターミナルでは、平成22年1月に事業活動を開始しましたが、平成22年度自主的取組実績報告書においてVOC排出量が計画値を8.4%上回った理由は、平成21年度分の各石油会社へのバイオETBE船転送量が平成22年度分にずれ込み、計画値を11%上回る船転送量の発生による初年度事業開始段階での一時的要因によるものです。今後も、揮発性有機化合物の排出等の抑制ための対策を確実にを行い、VOC排出削減に取り組んでいきます。</p>
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	興亜硝子株式会社 市川工場
------------	------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

(1) 計画年度(H22年度)VOC排出量の削減

①H22年度の塗料の使用量は、対基準年度(160t)に対して実績使用量は160tでした。

H22年度計画(260t)に対して実績(160t)で計画を達成する事が出来ました。

②VOC排出量につきましては、H22年度計画(130t)に対して、実績(120t)で計画を

達成することができました。

(2) 原単位指標でのVOC削減管理：(VOC排出量/塗装通過本数)

H22年度の原単位指標では、計画20%削減に対して、実績14.8%で達成することが出来ませんでした。H21年度実績(12.5%)より改善されています。

今後の方策として、生産効率の向上による塗料使用量の削減(塗装ガン設定での塗料吸着効率の向上、塗料余材の削減他)や塗料の転換検討等を継続して検討・推進し、VOCの削減に努めます。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社 日商グラビア
------------	-------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
12	21	31	54	55	91				

その他 (19, 29, 39, 49, 59, 99) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

--

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社 日商グラビア
------------	-------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
<input type="radio"/> A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
<input type="radio"/> B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
<input checked="" type="radio"/> C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>課題 生産量と使用量が比例して変動する。 低VOC化の推進が遅れている。</p>

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

機化合物の量について有効数字2桁で記載すること（1キログラム未満の場合は、小数点以下第2位を四捨五入して得た数値を記載すること。）。

5 計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{基準年度の排出等の量} - \text{計画年度の排出等の量}) / \text{基準年度の排出等の量} \} \times 100$$

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社パールマネキン パールデポ関東流通センター
------------	------------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2 1	2 2	2 3	2 9	3 3	5 2	9 1	9 4		

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

<ul style="list-style-type: none"> ・塗装技術の改善による抑制
ガン圧力・パターン調整・塗面との距離・ガン操作などで塗料の使用量を削減
<ul style="list-style-type: none"> ・同色系調達による抑制
下塗りど上塗りどが同色系の物を調達することで使用量を削減
<ul style="list-style-type: none"> ・調色時に隠ぺい方を叩させる工夫を加える
原色仕上げによる行程ロスと使用量減の為、調整してホワイトを加える
<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄用シンナーの廃棄を抑制
色の薄い物から濃い物への生産順位にて洗浄回数と量を削減
洗浄用シンナーを通常用シンナーへ変えることで洗浄後塗料へ戻す

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社 竹中製作所 本社工場
------------	--------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 2	2 3								

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

--

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社 竹中製作所 本社工場
------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	アズマプレコート株式会社 市川工場
------------	----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
○C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

平成23年6月に脱臭装置の燃焼バーナーの更新をしました。
燃焼効率の改善が期待されます。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 高浜油槽所
------------	---------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3 1									

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

--

(その四)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 高浜油槽所
------------	---------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場
------------	--------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	3 2	4 9	5 1	5 2					

その他 (1 9, 2 9, 3 9, 4 9, 5 9, 9 9) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1 : *ベンゼンの使用を廃止した。
対策 2 : *蒸留装置の第二凝縮器 (アフターコンデンサー) にコールドトラップを2基増設し、 VOCをより効率よく捕捉するようにした。 *蒸留装置# 2 3 0 0 のコールドトラップの位置の変更。 *蒸留装置# 3 4 0 0 の第2コンデンサー設置。(ベーパーの削減) *3系チラー装置全体の負荷の見直し、負荷の分散を行った。
対策 3 : *屋外タンクにベーパーリターン配管を設置した。 *TK-6 2 3 タンクの遮温塗装を行った。 *TK-6 2 2 タンクについても遮温塗装を行った。
対策 4 : 屋外タンクのブリーザーバルブ及びエステル中和釜のVENTから排出されるガスを吸着 除去するため、遊休としていたPSAを再稼動した。
対策 5 : アルデヒド製造時のオフガス対策としてディップ式吸収塔を設置した。

(その四)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場
------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

基準年度に対して30%削減するという目標については余裕で達成することができる。
昨年度は生産量が増えた為、排出等の量が19,000kgと計画値を達成することが出来なかった しかし、使用量に対する排出量の割合(排出量÷使用量×100)ではわずかに削減することができた。
これは、昨年度の対策として、蒸留装置#2300のコールドトラップの位置の見直し、 #3400の第二コンデンサーの設置、さらに3系のチラー装置の負荷の見直し等を行った。
また、TK-623, TK-622タンクについても遮温塗装を行った結果です。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。